

チーム医療と臓器別医療

チーム医療とは、さまざまな専門職の医療スタッフが連携して、個々の患者様の状況に合わせた医療を提供する体制のことをいいます。チーム医療では、医療スタッフが互いの専門性を発揮し、情報共有や業務分担をしながら協働します。患者様中心の医療を心がけ、患者様の人生観を尊重した療養を目指します。患者様やその家族も構成メンバーです。治療や療養に関する質問や悩みの相談、要望などを医療スタッフにお伝え下さい。さて、現代の医療はチーム医療がデフォルト(標準)となっていますが、一方で臓器別医療もデフォルトとなっているとって過言ではないでしょう。医療の専門性は著しく高まっており、業務も細分化・効率化されています。近年、コスト・パフォーマンス(コスパ)→タイム・パフォーマンス(タイパ)→スペース・パフォーマンス(スペパ)へと、パフォーマンス至上主義も広がりを見せていますが、医療とパフォーマンス至上主義との相性は、必ずしも良好とはいえません。TVドラマで取り上げられるようなピンポイントの治療目的、専門性に裏打ちされた使命感、自分の役割に対する達成感と自信がそろっていれば、チーム医療は良好に機能することでしょう。そこには業務分担されていても思いやり・つながり・リスペクトが双方向性に存在し、構成メンバー誰もが全体の流れ(whole story)を見渡せます。昨今、認知症医療も臓器別医療に近付いてきているように思います。根治的治療法のない認知症医療において、臓器別医療に準じているところが自分としては

不思議です。医療の専門性が高まっても、状況が悪化すると分担転じて分断となり、思いやり・つながり・リスペクトは失われ、全体の流れ(whole story)も見えなくなります。中途半端な診断至上主義・治療至上主義こそ分断を生むことでしょう。